

東光丸とは？

所属：日本近海汽船

進水：1943年12月18日

竣工：1944年2月27日

建造所：遠藤造船所

戦時中の海上輸送力強化目的のために造船された戦時標準貨物船の1隻

1945年4月頃、海防艦や駆潜艇の直接護衛を受けて下田港と八丈島の神奏を頻繁に往復していた。

そして本船は最後となる航海にて八丈島の疎開船としての任務を与えられる。

#### 東光丸事件 概要

1945年4月16日、八丈島から本土への最後の疎開船であった小型貨物船「東光丸」は、八丈島と御蔵島の間で、米軍潜水艦の発射した魚雷により撃沈された。

乗組員を含む乗客160名の内、助かったのはわずか11名であった。

乗船した島民55名は全員死亡し、このうち、学童は8名ほどであったと言われている。

#### 親族の体験談

この話は、祖父から当時の記憶を伝えられた父から聞いたものである。

東光丸出港の日、その時小学生であった祖父と祖父の家族は疎開勧告を受けており、東光丸が停泊していた神奏の方へ向かって歩いていたが、祖父たちが住んでいた地域から

神奏までの道のりがとても長かったため、出港時間に間に合わず、乗り遅れてしまった。

しかし、東光丸は出港後間もなく撃沈されてしまったため、祖父は、“船に間に合わなかったおかげで助かった”と言っていた。

私はこの祖父の体験談に浅からぬ縁を感じたと共に、東光丸事件について調べようと思った。